

『プロジェクト f 3』

昨年度の学校報の中に『中学生からアプローチする地域貢献』と題され、7月2日と7月20日の2回に渡って発行された記事を見つけました。その中心として位置付けられた『プロジェクト f』実施の経緯と目的、価値について安藤前校長が述べられています。(以下がその抜粋です。)

(前略) 要請に応える形の地域貢献もコロナでできなくなった令和二年度、地域の行事や催しのほとんどが中止となり、地域と中学校の関係が見出せなくなりました。その矢先の出来事でした、大湫町の大杉が倒壊したのは。

大杉は自らの尊い姿をもって、瑞浪北中の生徒に地域貢献の方向性を示してくれました。私が生徒会執行部に投げかけた「大杉が倒れたことで、北中校区の多くの方がショックを受けているよ」という言葉に、彼らは鋭く反応し、「大杉再生支援」が地域貢献の新しい形となりました。大杉写真展、マスコミの取材依頼、二度設けた寄付贈呈式などを通して、生徒たちは「中学生からアプローチする地域貢献」に取り組みました。私は、今年度の「目指す学校」を「地域と結びつく学校」としました。令和二年度までの「地域に開かれた学校」からの転換です。北中生から地域にアプローチしてつながっていく学校づくりを目指しました。「大杉再生支援」を卒業生から受け継いだ今年度の生徒たちは、早速地域と結びつこうと頑張り始めました。それが現在取り組んでいる「プロジェクト“f”」という取り組みです。(“f”はflowerのことです。)

今年度はアルミ缶回収の収益金で、地域に鉢植えの花をプレゼントしようと生徒たちは動いています。「地域のために自分たちにできることは何か」を生徒たちが考えて出した答えです。私はそのことに大きな意味があると思っています。要請があって動くものではありません。ヒントを与えられて動くものではありません。自分たちで判断し、自分たちで考えて、自分たちで動こうとしているのです。これこそ、瑞浪北中が「特長」と位置付けている「主体性」です。開校三年目にして生徒たちがそのような姿に成長してくれたことは、私にとっても大きな感動となりました。小さな小さな花ですが、生徒たちにとって大きな大きな意味をもつ花です。地域と積極的に関わることによって地域の人々の思いに触れ、地域を見つめ直すきっかけになることでしょう。地域に住んでいても、地域から距離をおいて見ていれば、地域のよさや魅力はいつになっても知ることはできません。地域との距離を自分から詰めなければ、それらはわからないものです。(後略)

この経緯・目的は、今も、そしてこれからも決して忘れてはいけないことです。瑞浪北中の原点の1つと言える動きであるからです。地域からのボランティア要請に応えることもとても大切なことです。求められている、頼りにされているという現われであり、それに応えることで、地域の方との関係を築き、密にすること、地域の一員としての自覚をもつことにもつながるからです。ただ、安藤前校長は、ボランティア要請に応えること、地域行事に積極的に参加することを『受け身の地域貢献』と表現されました。地域からの要請・依頼がなかったら、地域との関わりは生み出せないという意味です。正しくその通りだと思います。だから、学校報の表題が『中学生からアプローチする地域貢献』になっているのです。『プロジェクト f 2』まで積み上げられた伝統。その伝統を確かに引き継ぎ、「地域を明るくするために」という新たな目標を加え、『プロジェクト f 3』を実施しました。

「今、地域との関わりがもてることの素晴らしさを実感した。」「直接手渡ししたら喜んでもらえて、とても嬉しかった。」といった生徒の思いの一方、地域の方々からも感謝のお言葉をいっぱい頂きました。中学生から発信(アプローチ)したことによって生み出された地域との繋がりの具体です。何より、見るだけで心が和む、癒される、花を贈るという発想が素晴らしいと思います。後期、新たな活動として、生徒会が中心となり、地域に向けた情報発信を行っていくことを考えています。新聞、HP 等、どんな方法で行っていくのかはまだ具体的になっていませんが、どんな形になるのか、今から楽しみにしています。



【みどり幼稚園】



【釜戸小学校】



【学校給食センター】



【瑞浪市教育委員会】



【大湫コミュニティーセンター】



【中京こども園】



【土岐小学校】



【日吉コミュニティーセンター】



【文化センター・中央公民館】



【明世小学校】